

平成27年度 授業改善推進プラン

【学年 1 年生】【教科 国語】【授業者 堤・児島】

1 学校として「目指す学力」や「目指す授業」

- ・基礎学力の確かな定着と知識、技能を確実に習得し、思考力・判断力・表現力の育成を中心に、学力の向上を図る。
- ・ねらいを明確にした分かりやすい授業、学ぶ楽しさや分かる喜びをもたせる授業を目指す。

2 児童・生徒の現状

◆資料を活用した分析

活用した資料名	分析結果
「生徒の授業振り返りシート」	・「授業の進度（速度・量）は自分にとって合っていますか」の割合は87.6%の生徒がちょうどよいと答えている。「考える時間や表現する時間がある」の割合も67.8%の生徒が「そう思う」と答えている。質問を分かりやすくすることや教材の工夫をする必要がある。
「定期テスト・積み上げテスト」 読む力・書く力・言語 「漢字テスト」	・基礎的な文章の読み取りは出来ている。 ・週一回漢字テストを実施し言語理解をしているが、定着には差がある。

3 児童・生徒の学力・学習状況等の課題

- ・「考える時間や表現する時間がある」授業を今後も継続することが必要である。
- ・「漢字テスト」は週一回実施しており、出題範囲が決まっている。そのため、家庭学習の定着を含め、継続的に取り組んでいくことが課題である。

4 授業改善策

改善の観点	具体的な改善策
<思考・判断・表現>	・考える、発表し合うなどの主体的な活動を促す場面を、計画的に設定していくようにする。
<個に応じた指導の工夫>	・グループでの教え合い活動等により、個の学びが深まるようにする。
<発問の工夫>	・考える場面を設定するための発問を取り入れる。

平成27年度 授業改善推進プラン

【学年 2 年生】【教科 国語】【授業者 児島・北島】

1 学校として「目指す学力」や「目指す授業」

- ・基礎学力の確かな定着と知識、技能を確実に習得し、思考力・判断力・表現力の育成を中心に、学力の向上を図る。
- ・ねらいを明確にした分かりやすい授業、学ぶ楽しさや分かる喜びをもたせる授業を目指す。

2 児童・生徒の現状

- ◆「児童・生徒の学力向上を図るための調査」の分析
(小学校5年生・中学校2年生の調査実施教科)

児童・生徒質問紙結果分析	観点別の調査結果分析
<p><学習意欲></p> <p>・授業内容を「よく分かる」「どちらかといえば分かる」としている生徒の割合は86.8%である。その理由に「お互いに意見を出し合ったり、学び合ったりする授業が多いから」を挙げている生徒が72.9%と一番多かった。</p> <p><生徒の理解を図る授業の在り方></p> <p>・「よく分かる」理由として一番多かった「お互いに意見を出し合ったり学び合ったりする授業」を今後も継続する。</p>	<p><観点：読む></p> <p>・教科の内容は、「思考・判断・表現」が都平均の56.2%に対して54.8%と1.4%低くなっている。その他は都平均を上回っている。特に「読む」の割合は都平均の66.3%に対して70.7%と4.3%高くなっている。</p> <p><観点：解決する力></p> <p>・読み解く力に関する内容は全て都平均を上回っている。特に「解決する力」の割合は都平均の25.4%に対して39.8%と14.4%高くなっている。</p>

- ◆資料を活用した分析

活用した資料名	分析結果
「生徒の授業振り返りシート」	<ul style="list-style-type: none"> ・「授業の進度（速度・量）は自分にとって合っていますか」の割合は、78.6%の生徒がちょうどよいと答えている。「考える時間や表現する時間がある」の割合も、68.4%の生徒が「そう思う」と答えている。質問をわかりやすくすることや教材の工夫をする必要がある。
「定期・積み上げテスト」読む力・書く力・言語 「漢字テスト」 「聞き取りテスト」	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的な文章の読み取りは出来ている。 ・週一回漢字テストを実施し言語理解をしている。 ・正確に必要な事を聞き取る力がついてきている。

3 児童・生徒の学力・学習状況等の課題

「お互いに意見を出し合ったり、学び合ったりする授業」を今後も継続することが「よく分かる」授業につながっている。教科の内容として「思考・判断・表現」の割合のみ都平均より1.4%低くなっている。今後は読み解く力だけでなく、「思考・判断・表現」を高めるため、考える場面の設定、発表し合う場面の設定など計画的に取り入れる。

4 授業改善策

改善の観点	具体的な改善策
<p><思考・判断・表現></p> <p><個に応じた指導の工夫></p> <p><発問の工夫></p>	<ul style="list-style-type: none"> ・考える場面、発表し合う場面の設定などを計画的に取り入れる。 ・班活動を取り入れ、個への支援を行い学びが深まるようにする。 ・様々な考えや思考を深められる発問を工夫する。

平成27年度 授業改善推進プラン

【学年 3 年生】【教科 国 語】【授業者 堤】

1 学校として「目指す学力」や「目指す授業」

- ・基礎学力の確かな定着と知識、技能を確実に習得し、思考力・判断力・表現力の育成を中心に、学力の向上を図る。
- ・ねらいを明確にした分かりやすい授業、学ぶ楽しさや分かる喜びをもたせる授業を目指す。

2 児童・生徒の現状

◆資料を活用した分析

活用した資料名	分析結果
「全国学力・学習状況調査」	<ul style="list-style-type: none">・[主として知識]に関する問題では、全て全国及び都の平均を上回っており、必要な知識の定着が図られている。特に、「話す・聞く」では、6ポイント以上上回っている。・[主として活用]に関する問題では、全国の平均はどれも上回っている。しかし、都の平均と比較すると「話す・聞く」以外は0.5ポイント前後低い結果となっており、その中でも「書くこと」に関する分類が1ポイント近く低い。
「生徒の授業振り返りシート」 「定期テスト、単元別テスト、漢字小テスト」	<ul style="list-style-type: none">・「授業のポイント・ねらい」「授業の内容や質問」は、分かりやすいと感じている生徒が95%を超えている。また、「授業中に考える時間や表現する時間」があると回答した生徒は、98%であった。・漢字は、継続してよく取り組んでいる。定期テストでの課題作文は丁寧に書くようになってきたが、単元別テストでは、個々の取り組みに差が見られる。

3 児童・生徒の学力・学習状況等の課題

- ・学年相応の知識の定着は図られている。しかし、それを活用する力、特に「書くこと」においての力が不十分であると言える。そこで、「課題に対して適切な表現で書く」ことや「書いた文章について意見を交流し、文章を正しく書き直す」ことの定着と向上が課題である。

4 授業改善策

改善の観点	具体的な改善策
<言語活動の工夫>	<ul style="list-style-type: none">・「話す・聞く」「書く」「読む」の言語活動を毎時間の授業に取り入れ、考える時間、情報を共有し合う時間を設定する。・書いた文章を読み返し、全体を整える活動や互いの文章を読み合い、評価する活動を取り入れる。・課題作文などを書く活動を通して、課題に対しての文章の書き方を身に付けるようにする。
<個に応じた指導の工夫>	<ul style="list-style-type: none">・班活動や小グループでの教え合い活動を取り入れ、個の学びを深められるようにする。
<発問の工夫>	<ul style="list-style-type: none">・一人一人の思考を深められる発問や様々な考えが導き出せるような発問を工夫するとともに、意見の交流を促す発問を意識的に行う。